徳島大学附属図書館

館報

No.23
1981. 1.

蔵本分館8ヵ月
阿波医学の源流を尋ねて
Japan-MARCの運用
鍵とカード
附属図書館文化行事

蔵本分館長8ヵ月

檜澤一夫

蔵本分館長に就任以来の8ヵ月をふり返ってみると，この間は附属図書館とくに分館の現況を理解し把握することに終始したように思います。一利用者として眺めた図書館と，内から視た図書館ではやはり勝手が違い，しかもコピーが飛び交い，コンピューターが必須となった情報溢れる時代ですから，私の旧式な考えに新知識を幾分なりとも注入する期間が必要でした。この8ヵ月に考えの中身がどれだけ刷新されたか自身定かではありませんが，竹治館長の方針，運営委員会，蔵本地区学部図書委員会の意向を受けて運営を図って行く所存です。昨年は附属図書館職員に大きな異動がありましたが，新風と若さが送り込まれ支障なく仕事が進められております。

蔵本分館は歯学部の加入によって一段と拡充され，生物科学を主軸とするという特色が一層強くなりました。この特色をふまえて，分館の将来にわたる構想も練られ，概略方向も示されていますが，その実現には予算や定員の裏付けを必要とし，設備の増強，更新，業務の合理化など成されるべきことがまだ山積しています。この機会に分館が当面する問題と今後の目標について少し考えてみます。

事務の合理化については已に電算機による事務処理の調査が続けられ，徐々に具体的な検討に進んでおります。情報検索については最近少しずつ電算機利用の件数が増加してはいるものの，まだ文献検索の多様な状況と注文に遭遇して司書が十分勉強できる程の件数には達していません。この理由の一つは電算機使用料が校費支弁に限定されていることにあると思われるので，その改善を検討し，さらにJOIS以外のシステムに加入することも考えています。

附属図書館の定員は前館長の非常な努力により最近若干名増加しました。しかしこれでもまだ不十分なことは非常勤職員との比率からみても明白であり，定員の総体的な窮屈は認めるとしても不適正な所は是正を計りたいと考えます。

現在最も苦しく，影響が已に現われ始めているのは図書館維持経費および雑誌購入経費の逼迫です。この傾向は今後も続き，強まる傾向さえ伺えるので，予算増額の要求とともに，一方ではむしろこの情勢に適合して，効率的な予算使用の工夫を凝らすべきではないでしょうか。蔵本地区では雑誌の重複が少なくなく，就中医学部内で最も多数重なっています。また各教室に置いてあるために共同利用の困難な雑誌も少なくない。蔵本分館の購入外国雑誌775種中532種が図書館にありますが，集中率は68％であります。この上120種が重複しているため，購入総数は896部に達しており，これをもう少し効果的に別の雑誌に充当したくなります。国内誌の集中率はさらに低く，重複度はより高くなっています。研究室内図書室の存在にも理由があり，100％の集中化は現実に可能とは思いませんが，仮に講座内図書室の外国誌を20％程度まで減少すると（現在は32％），80％近い集中率となりその分だけ学部間の共通利用が円滑になる筈です。分館の集中的収書は蔵本地区学部の御協力によって少しずつでも進めたいと思います。

附属図書館の良否は大学の活動状況に反映されるといわれます。それは図書館の設備，所蔵資料の多寡にもよるのでしょうが，館員の熱意と運営の如何がより大きく関係します。その上に年月をかけて豊富な資料を蔵する大図書館を目指すべきでありましょう。蔵本分館は幸い共通分野を多く持つ医歯薬学部を基盤としており，３学部の共通部分の活用と協同によって人の面においても，経費の面においてもまだ澤山の能力と余裕をひき出せるように思われます。

1981．１．７．　（蔵本分館長）

阿波医学の源流を尋ねて

福　島　義　一

幕藩時代，医師になるためには医家に入門して徒弟教育をうけねばならなかった。

数年たつと代診に昇格し，更に，学理と実際に通達すると，学派によっては秘伝をさずけた。そのために，誓詞をかき血判して師家に提出するようなこともあった。

このような秘密主義による徒弟教育をのぞくため，阿波藩では寛政７年（1795）から本藩出身の本草学者小原春造（1762－1822）を京都から招いて講主（教授）として，徳島市沖洲町舟戸南

（ふなどみなみ）に居宅を与えて，ここに学舎と薬園を併置して医生をあつめて医育をはじめた。これは，現在の徳島大学医学部ならびに薬学部の淵源である。

当時，これを医師学問所（処）または医術学問所（処）などと呼んだが，後には，医師学問所として統一せられた。

この施設は，場所が遠隔不便な地に在るという理由から，一時城下街寺島の藩校に移されたという説もあるが，文化4年（1807）徳島市安宅町天文台構地付近に新築移転した。さらに，天保14年(1843)長久館設置にあたって徳島市幸町3丁目（当時の塀裏丁）へ新築移転し，そのとき薬園は現徳島駅付近へ分離した。

しかし，阿波藩の医師のすべてが医師学問所に通ったのではなかった。当時天下に知られた藩外大家に入門して学修した人物も少なくない。

医学史上，産科学の開祖とたたえられる賀川玄悦（1700－1777）は，現在から約200年以前に正常胎位を発見し，また，載胎術を案出した。この業績は，本藩出身の美馬順三（1795－1825）によってオランダ語に訳せられた結果，蘭館医シーボルト（1796－1866）によって当時のヨーロッパ医学界に発表された。これは日本人の医学的業績がヨーヨッパ医界に紹介された最初である。

この賀川玄悦が明和5年（1768）阿波藩医となり，二代玄廸以降代々京都詰藩医となったので，本藩出身の多数の医師たちが京都にあつまり，賀川産科を修めた。

また，内服用の麻酔剤（通仙散，麻沸散）を創製して世界最初に乳癌摘出手術に成功した紀州の華岡青洲に入門して，本藩外科学を開拓した医師たちも少なくない。

ドイツ人シーボルトPhillipp Franz von Siebold が文政6年（1823）蘭館医として来日し長崎鳴滝塾をひらき日本人に西洋医学を教授しはじめると本藩から前記美馬順三，高　良斎(1799－1846）が入門した。当時，西洋医学の大要は輸入のオランダ語医書や，その和訳書によって知っていても，実際の医技，特に，手術はよく判らなかった。シーボルトは日本人から鎖国当時の日本事情を探査する目的を抱いていたが，それと交換に親切に西洋医学を伝授した。

しかし，文政11年（1828）シーボルト事件が起って，高　良斎は連坐して天保2年（1831）帰郷して，徳島市（当時の魚ノ棚丁）で西洋医学をもって診療し，また，オランダ語を教授した。これは，本藩で西洋医学の行われた最初であるが，当時の藩首脳と多くの領民たちは彼の医療を敬遠したので，天保6年（1835）大阪へ去って行った。良斎は大阪で蘭学者として天下に知られるようになった。

高　良斎が，故郷徳島を去って19年後，やがて黒船の来航となって蘭学は必然的に受容せられる結果となり，本藩では蘭医高畠耕斎(1813－1859)を町医から藩医に登用して，安政5年(1858)医師学問所で蘭学を教授するようになった。

やがて幕府が崩壊し明治維新をむかえた結果，かつて長崎精得館で蘭医ポンペ（1829－1908）に医育をうけた藩医関　寛斎（後に寛ゆたかと改名1830－1912）を起用して藩医学校（巽浜－たつみはま医学校）を開設して西洋医学による医育をはじめた。

明治初年の頃には，本県の医界は西医派と漢医派とに分裂して医師たちは抗争をつづけた。

明治政府は明治２年（1869）東京に大学東校を開設し，ドイツ医学を採用して明治４年７月東校と改称し，同年８月ミュルレルLeopold Müller とホフマンTheodor Hoffmannが着任すると医育制度に大改革を断行して立派な医師養成をはかった。

この頃，阿波藩から選抜されて東校に学んだ人たちには次の人物がいる；

薬　学　者　　長井　長義（1845－1929）

眼　科　学　者　　井上　達也（1848－1895）

医　師（特志家として知られた）　　関　　生三（1854－1913）

元東北帝大教授，元宮城県立病院長　内田　守一（1855－？）

初代徳島市医師会長，「阿波国最近文明資料」の著者　神河　庚蔵（1851－1926）

明治13年（1880）徳島県立徳島医学校が開設され，日本最初の医学士三浦浩一（1849－1934）がその校長兼付属病院長に就任した。この学校は，創設当初は乙種医学校であったが，新宮涼亭，劉小一郎，千原春甫など新進の医学士を教授に招聘したので，明治16年（1883）甲種医学校に昇格した結果，卒業生は無試験開業がゆるされた。明治21年（1888）府県立医学校費用地方税支弁禁止令によって惜しくも廃校となったが，すでに数十名の卒業生を県内外の医界におくって貢献した。

明治８年（1875）文部省は医術開業試験を通達実施しはじめたが，その試問内容は西洋医学によるものであって，漢方では合格することができなかった。当時政府は特例として開業中の漢方医に対して生涯既得権を与えたが，その子弟は西洋医学に転向するより他に開業医になる途はなかった。そこで，当時絶対多数を占めていた全国漢方医家が団結して漢方医存続運動を展開した。徳島県では，明治13年（1880）元藩医井上肇堂，筒井珉岱，寺沢道榮，近藤康斎，馬島春栄等が当時の西横町（現，徳島市元町付近）に漢方専門の私立済生医院を開設して漢方の存続と研究を行った。しかし，この施設は明治17年（1884）廃止となり，明治28年（1895）第８回帝国議会において漢方を加える医師免許規則改正案は否決せられ，以後わが医制から漢方はその姿を消してしまった。

本県においては，約半世紀間県民が医育機関の設置を待望していたが，昭和18年（1943）徳島県立徳島医学専門学校が創設せられ，昭和20年(1945)官立に移管され徳島医学専門学校と改称した。同年７月徳島市空襲によって付属病院が焼失した結果，下級生（１，２年）のみ存続，上級

生は他校に転校を命ぜられたので，その救済措置として特設徳島高等学校（旧制理科乙類該当）を併置して主として転校該当者を入学せしめた。昭和23年（1948）徳島医科大学が創設せられ，つづいて昭和24年（1949）徳島大学が設置せられ，徳島大学医学部が開設された。

前記，特設徳島高等学校（昭和25年３月31日廃止）および徳島医学専門学校（昭和26年３月31日廃止）はそれぞれ学制改革によって発展的にその姿を消した。　（日本医史学会評議員）

注：筆者の了解を得て「医学・薬学古書文献展目録」から再掲しました。

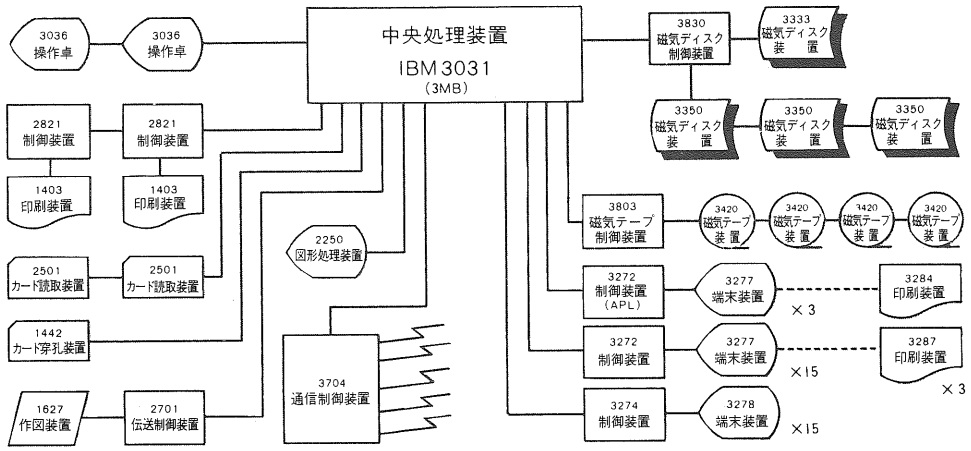
「Japan-ＭＡＲＣの運用とその将来像」説明及び公開実験に出席して

Japan-ＭＡＲＣのＭＡＲＣという言葉は，MAchine Readable Catalogue/Cataloging の略称で，「機械可読目録」と翻訳されているものです。当館でも目録カードの作成にＬＣカード(洋書)，国会図書館カード(和書)を利用しています。これらはこのＭＡＲＣテープ(以下テープという)から出力されて標準カードに印刷されたものなのです。

国立国会図書館では，52年12月には，和図書の目録システムを確立し，53年１月から「納本週報」のコンピュータ処理による機械編集が開始され55年４月から目録カードの作成をテープからいきなりカードに出力する方法を採用し，目録カード頒布のスピード化をすすめて来ています。

こうしたことを背景にして金沢工業大学等にテープを実験用として放出し，その運用についての検討をして来たわけですがその経過報告と公開実験がトップをきって同大学計算機センターによって行われた訳です。同センターのシステム構成図※は下記のとおりです。

システム構成図 IBM 3031



※ 同大学入学案内　昭和56年度版　p．57

実験は当然漢字を扱ってすべきものですが現状ではそれほどまでに普及していない漢字ではその運用について広範な利用が求められないために普及度の高いカタカナと英字による検索ということになりました。

テープは一年間分約4万件収容のもので，端末はカプラー方式(現在分館でJOISに使用している機種）とディスプレイ付コンソールタイプライターの2機種を使って行われました。検索には同センターで開発された図書館情報システム「LINKIT」※利用解説書に従ったもので，実施サンプルは図書館関係者の集りということで図書館関係文献を検索するというものでした。

一例をあげますと，まずトショカンというKey Wordで情報を探しますと，389件有りと応答されます。次にANDを使ってダイガク(図書館と大学）という限定をつけると135件となり，更にキカイカorオートメーションと限定すると文献は2件と少なくなります。

そこでその2件の内容は？ということで決められたコマンドで指示すると，

Titl. ダイガクトショカン　ノ　キカイカ
Auth. コクリツ　ダイガク　トショカン
　　キョウカイ
Titl. ツクバダイガク　フゾクトショカン
　　ジョウホウショリ　システム
Auth. ツクバダイガク　フゾクトショカン

と回答されるわけです。

このものについて書誌事項を知りたければコマンドBを指示します。そうすればこの二件に関してテープに入っているすべての情報が出力されるという仕組みなのです。

以上のような実験でしたが実習の段階ではLINKITにしたがってめいめいで文献の検索ができたわけです。

テープユーザーとしての将来はとなると，

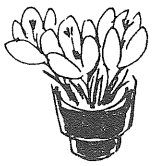
1. 漢字コンピュータの普及
1. COM(Computer Output Microfilm/ing)による目録カードのスペースセービング化
1. テープを利用してのOCLC(Ohio College Library Center)方式の構想化などが考えられるのではないかと思うのです。

紙数の関係で詳述できませんでした。

資料としては，

ジャパン・マーク仕様書の概要　石山　洋
国立国会図書館月報 No.226p. 6－14, (1980)
国立国会図書館における業務機械化の歩み
総務部電子計算課，図書館研究シリーズ
No.21　p. 1－397,　(1980)
LINKIT　利用解説書　金沢工業大学計算機センター
JAPAN-MARCデータによる書誌検索システム　寺下陽一他　図書館雑誌 74(6) p.274-276 (1980)
助岡君二（附属図書館　整理係長）

※ Library INformation System of Kanazawa Institute of Technology



鍵とカード

矢　田　健太郎

昭和53年11月より約2年間，ニューヨークのスローン・ケタリング癌センター(Memorial Sloan-Kettering Cancer Center, MSKCC)で研究員として過ごす機会があった。ニューヨーク，なかでもマンハッタンは芸術・文化・商業の中心地で世界で最も活動的な所として知られている。マンハッタンは東西4km，南北24kmの細長い島で，この上に高層ビルが林立し，摩天桜をつくっている。研究所はマンハッタンでも東の端のヨーク通りと一番街，67丁目と68丁目の間の1ブロックを占めている。世界最大の自動車会社，General Motor社のSloan氏とKettering氏の寄付をもとに1884年に創られ，民間の癌研究施設としては世界一の規模といわれている。寄贈者の名前のついたSchwartz, Harward, Kettering の各研究棟と新旧二つの記念病院，医師，看護婦の

住居棟から成っている。ニューヨーク郊外のRyeにも研究所の分室がある。ヨーク通りと68丁の北の角は，イランのパーレビ前国王が入院していたコーネル大学附属病院がある。南の角はロックフェラー大学で，日本の生んだ世界的医学者の一人である野口英世が研究生活を送ったところでもあり，彼の胸像は大学の図書館内に置かれている。このように環境はマンハッタンの中でも良い。MSKCCの規模は我が国の国立ガンセンターと比較すると判かり易いと思う。(数字は1977年度，弧内が国立ガンセンター)。

年次予算：13,350万ドル（4,050万ドル)。

主要収入源：個人，企業，財団・個人的医療保険業者・政府（政府）。

スタッフ数：医師292（104），

研究科学者293（123），

看護婦664（278）。

病院：ベット数565（475），

入院患者数14,440(2,619)，　平均入院期間13.1日（59.8日），

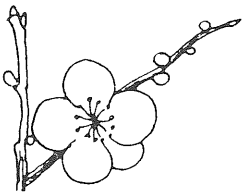
外来患者数127,936（142,246），

外科手術数14,500（2,322)。入院患者数，平均入院期間，外科手術数で差がみられる。癌患者を多く扱い，外来患者数は両者とも同じであるので，在院期間の差は両国の医療体系のちがいをうかがわせるデーターである。さて，表題の鍵とカードについて話しをすすめよう。ニューヨークに到着した当日，ボスに挨拶に行き，その足で銀行に口座をつくることになった。同行してくれたA氏にいわせれば，現金を持ち歩くことは出来るだけ避けるべきで，生命と引き換えに20ドル紙幣を常時携帯しておればよい。金額が少なすぎると強盗も失望のあまり，ついピストルを使用することになるので20ドルあたりが妥当な額だとのことである。彼のすすめで，口座を開き，小切手とキャッシュカードを申込むことになった。研究所に出勤した日にもまず，身分証明書用の顔写真をとってもらうことから始まった。ちなみに，あとで持つことになったカードを挙げてみると，MSKCCの顔写真入りの身分証明書（Identification Card，I.Dカード），24時間作動するキャッシュカード2枚，デパートのcharge card 3枚，クレジットカード2枚，コーネル大学医学部図書カードとMSKCCの図書カードである。この他，日常買物をする近所のスーパーマーケットのクレジットカード等が加わってくる。図書カードもプラスチック製で，借り出す際の手続きは機械でプリントすればよく簡単である。MSKCCの図書館（Lee Combe Memorial Library)は研究所内にあり，定期刊行物を利用するのには便利であった。館内に二台のコピー機があり，所属，名前と枚数を記入すれば自由に使え，料金は所属する部の予算から精算されていた。コーネル大学の図書館(Samuel J. Wood Library)は特定の祝日以外は日曜日も開いており，夜の12時まで開館していること，定期刊行物が豊富なこと，雑誌の整理，保管が完全であることなど利用価値が大であった。しかし，コーネルの職員以外にはいくつかの制限もあった。製本されていない雑誌は借り出した時刻から1時間以内に返却しなければならないこと，乾式のコピー機が使用出来ないこと等であった。有料のコピー機も館内にそなえつけられていたが，湿式で強い臭いと光沢のある紙面で，一枚5セント（約10円）であったがあまり利用しなかった。帯出期間は7日間で，返却が遅れると1回70セントの罰金がついてくる。借り出す際には係員によって，カードで記録がつくられるが，返す時には，そのまま返却デスクに置くだけで確認されないので不安感はあった。現実に，返却しているにもかかわらず，罰金の通知が回ってきたこともあった。各種のカードのうち，研究所の外で最も重視されたのは自動車運転免許証である。電話のあること，免許証をもっていることで小切手も信用されていたようだ。つぎに生命の安全を確保する手段が鍵ということになる。マンハッタンは限られた面積に多数の人間がひしめき合うため，アパートについても高層化の傾向がある。安全だといわれているアパートにはdoor manもしくはguard manが居り，人の出入りをチェックしている。小生が単身の時住んでいた研

究所のアパートは夕方5時にはdoor manが帰り，玄関が閉まってしまう。玄関のカギ，ついで自分の部屋のカギ，更には警報ベルのセットを解除するカギを使い自分の部屋に入ることになる。むろん，家族が同居しておれば，インターフォンで連絡すれば，部屋からでも玄関のドアは開くように設計されている。家賃の高いアパートは24時間，guard manが居り，モニターテレビの監視があって，より安全だということになる。研究所においても事情は同じである。玄関でI.Dカードの顔写真をみせ，確認してもらって入る。小生の居た研究室は物品管理が行きとどいていたことでも有名であった。使用済みの注射器・針の処置にも充分注意をはらっていた。専用のカッターでまず針を根元で切り，ついで注射器の先端をカットする。使用済みの器材が麻薬中毒者に流れるのを防ぐためである。

いうまでもなく，多くの人達がのべているように広大な国土，豊かさ，人々のもつエネルギーの強大さにも深い感銘を受けたが一方，鍵で身の安全をはかり，カードで自己を証明せざるをえない生活環境は，マンハッタンのもつ特殊事情を示す具体例として印象に残っている。ニューヨークで初めての下宿生活を経験した者の目を通しての印象であることはおことわりするまでもないだろう。

（医学部第三内科　講師）



附属図書館文化行事

医学・薬学古書文献展

— 阿波医学の源流を尋ねて —

本年度で第3回目に当る文化行事を蔵本地区で開催した。

期間は昭和55年11月7日(金)～16日(日)までの10日間で，期間中2回の日曜日は学外者にも公開し，特に11月9日には歯学部第一講義室を借用し，日本医史学会評議員　福島義一氏（徳島市蔵本町在住）による講演会を2時間に亘って開催し62名が聴講した。

演題は「幕藩時代に徳島と長崎とを結んだ人たち—阿波西洋医学の渕源—」とし，スライドを使用した講演で聴衆を魅了した。

この行事については，館報22号に経過報告し，徳大広報39号（'80年11月）に詳細掲載したので中身の報告は省略する。

この行事の開催にあたっては，薬学部村上助手らの御協力で「医学・薬学古書文献展目録」B5判，34頁を作成し参観者に配布して展示内容を一層理解できるように配慮した。

期間中の入場者は学内166名，学外83名であった。会場が会議室とセミナー室の2ヵ所に分散したためにどちらか一方だけを観られただけで帰られる方も見受けられたので，今後の開催にあたっては十分配慮すべきであると感じた。

この行事についての広報は学内にはポスターでもって周知し，学外の方には放送局，新聞社等にお願いした。

分館ではこれら展示資料で分館所蔵のものについては，会期中に観られなかった学内者の方にも観られるように随時ショーケースなどに展示して，来館の折に観てもらえるようにしてあります。

大型コレクションの共同利用の案内

昭和53年度から，文部省において図書資料（大型コレクション）購入の予算措置が講じられ，全国共同利用資料として各大学附属図書館で逐次整備されています。

昭和54年度分として，各大学図書館から購入図書資料とし下記リストの案内がありました。

これら資料の相互利用については，運用係の方へ御相談下さい。

昭和54年度大型コレクション購入一覧

大学名	コレクション名
北海道	○ドイツ法制史・実定法関連コレクション
弘前	○初期英語文献協会出版物
東北	○米国判例体系
	○英国古書集成
山形	○上杉文書
筑波	○マックス・ベツソン・ジャポニカコレクション
埼玉	○現代政治学基本文献集
千葉	○イギリス知体験
東京	○英国政府刊行物
	○民国時代公文書資料
	○舌耕文芸関係資料
東京学芸	○英国教育学文献集成
お茶の水女子	○女性の歴史
横浜国立	○中国方志叢書
新潟	○欧州各国公式経済統計資料
富山	○承政院日記
静岡	○国際連盟関係コレクション
名古屋	○ホッブスを中心とするイギリス思想史原典コレクション
京都	○台湾中国国立中央図書館善本漢籍
	○フランス国民議会議事録
京都教育	○教育情報センター文献資料
大阪	○ユダヤ研究コレクション
大阪外国語	○北欧歴史と民間伝承コレクション
神戸	○ロシア・ソ連で出版された日本関係文献
神戸商船	○近世の廻漕史料（東北編）
奈良教育	○アメリカ主要大学教員養成関係学位論文集
鳥取	○四部分類叢書
岡山	○ドイツ歴史史料集成
広島	○米国国勢調査報告書
	○英国議会議事録(ハンサード)
	○戦争と平和に関する文献目録 (1) フーバー研究所目録 (2) 現代史研究誌索引 (3) 現代史＝世界戦史文献目録
山口	○四庫全書珍本
愛媛	○大日本古文書正倉院編年文書
九州	○米国判例体系
	○欧州各国公式経済統計資料
	○石崎文庫蔵本
長崎	○巨大企業・経済集中関係資料
熊本	○旧幕府引継書
鹿児島	○シポガ学術探検報告

雑　報

○昭和55年度　徳島県図書館大会開かる

昭和55年12月1日(月)　新装なった鳴門市立図書館を会場にして〝図書館をもっと身近に暮らしのなかに〟をスローガンとして，約250名の参加で標記大会が開かれた。

当館からは，第二分科会「図書館づくりと図書館運営をどうすすめるか」に芳川，桜木両係長が参加した。

○ISSN（国際標準逐次刊行物番号）についての懇談会開かる

昭和55年12月4日(木)，川添登美夫氏（国立国会図書館逐次刊行物国際登録係）が来館し，ISSN（International Standard Serial Number）について，附属図書館会議室で30名ほどの参加を得て懇談会が開催されました。当日徳島大学刊行物　ISSNリストのコピーが配布されたが，当学は15部で以下にそのタイトルとISSNを示します。

徳島大学刊行物　ISSNリスト

ISSN 0495-761X　徳島大学学芸紀要 教育科学
ISSN 0075-4307　徳島大学学芸紀要 自然科学
ISSN 0495-7628　徳島大学学芸紀要 社会科学
ISSN 0495-7601　徳島大学学芸紀要 人文科学
ISSN 0563-6981　徳島大学教養部紀要 自然科学
ISSN 0563-6973　徳島大学教養部紀要 人文・社会科学
ISSN 0563-6965　徳島大学教養部紀要 保健体育
ISSN 0387-0650　徳島大学教養部倫理学科紀要

ISSN 0075-4293　Journal of Mathematics, Tokushima University
ISSN 0040-8883　Bulletin of Faculty of Engineering, Tokushima University
ISSN 0371-5949　徳島大学工学部研究報告
ISSN 0371-6139　徳島大学薬学部研究年報
ISSN 0037-3699　四国医学雑誌
ISSN 0040-8875　Tokushima Journal of Experimental Medicine
ISSN 0389-3065　研究紀要—徳島大学教育学部附属小学校

○JOIS 説明会開催

昭和55年12月10日　午前を蔵本分館，午後は本館と2会場に分れて日本科学技術情報センター大阪支所，芦崎達雄氏を迎えて分館では将来スタートするJOIS—II，本館では現在稼動のJOISの説明と実演が開催され，双方で教官，館員約50名の参加があった。

注：JOIS—IIについて比較的詳細なレポートは「ドクメンテーション研究」30巻12号(1980)にのっています。

会　　議

附属図書館運営委員会（昭和55年度第4回～第6回）

第4回　昭和55年7月7日(月)（於　蔵本分館）
議　題
1．学生図書購入費の配分について
2．参考図書購入費の配分について
3．蔵書目録刊行に関する検討委員会について

第5回　昭和55年9月22日(月)（於　附属図書館）
議　題
1．教養図書購入費の配分について
2．附属図書館の文化行事について
3．蔵書目録刊行に関する検討委員会について（継続）

第6回　昭和55年12月17日(水)（於　蔵本分館）
議　題
1．昭和55年度学生用図書購入費(追加分)の配分について
2．徳島大学附属図書館宿日直実施細則の廃止について
3．本館書庫の増築について

出　　張

（昭和55年7月1日～昭和55年11月30日）

7月14日　日本薬学図書館協議会近畿・四国・中国地区総会
（於　京都薬科大学図書館）
出席者　蔵本分館受入係長　尾原　忠雄

8月27日～29日　第15回医学図書館員研究集会
（於　東京慈恵会医科大学高木会館）
出席者　蔵本分館整理係　斎藤　友子

9月5日　学術雑誌総合目録欧文編データ更新記入説明会
（於　大阪大学附属図書館吹田分館）
出席者　整理係長　助岡　君二

10月20日　Japan-MARC の運用とその将来像説明及び公開実験
（於　金沢工業大学計算機センター）
出席者　整理係長　助岡　君二

10月23日～24日　第51回日本医学図書館協会総会
（於　宝塚ホテル）
出席者　蔵本分館受入係長　尾原　忠雄

10月30日～31日　昭和55年度日本薬学図書館協議会研究集会
（於　新熱海ホテル）
出席者　蔵本分館整理係長　桜木　強

11月5日　電算化先行大学図書館見学
（於　岡山大学附属図書館）
見学者　整理係長　助岡　君二
受入係　岡田　恵子

11月7日　電算化先行大学図書館見学
（於　鹿児島大学附属図書館）
見学者　整理係長　助岡　君二
受入係　岡田　恵子

11月19日　第21回中国四国地区大学図書館研究
～21日　集会
（於　ホテル宍道湖）
出席者　整理係長　助岡　君二
受入係　　三井　忠臣
運用係　　加川　徳子

11月27日　第７回（昭和55年度）国立大学図書館協議会中国四国地区協議会
（於　高知会館）
出席者　館　長　竹治　貞夫
事務長　秋山欣之介

11月27日　第７回（昭和55年度）国立大学図書館協議会中国四国地区協議会係長会
（於　高知会館）
出席者　受入係長　河田　政雄

来　館　者

（昭和55年７月１日～昭和55年11月30日）

8月 7日　岡山大学附属図書館
文部事務官　入沢　孝平氏

8月 7日　四国女子大学附属図書館
図書課長　沖田　　学氏
図書係長　阿部絵津子氏
図書係員　村田　永子氏
〃　　上地　美紀氏

9月24日　図書館情報大学
経理係長　海老根　裕氏
学務係長　峯　　一夫氏

10月22日　文部省大臣官房総務課記録班
主査　嶋崎　　巌氏

11月19日　東京医科歯科大学附属図書館国府台分館
図書掛長　小沢嵯枝子氏

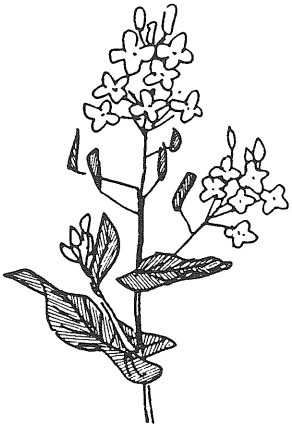
人事往来

（昭和55年７月１日～昭和55年11月30日）

採　用　原田　禎子　蔵本分館受入係　55. 8. 1
松本　亀吉　蔵本分館運用係　55. 8.21
西川　裕恵　〃　受入係　55. 8.21
11. 13から整理係
加藤　真弓　〃　運用係　55.11.11

退　職　小笠　博子　蔵本分館受入係　55. 7.26
島津加寿子　附属図書館運用係　55.10.31
安藤　陽子　蔵本分館運用係　55.11.10
松本　亀吉　〃　〃　55.11.12

配置換　藤田　洋子　附属図書館運用係　55.11.1
（蔵本分館整理係）



目　次

蔵本分館長８ヵ月 …… 1
阿波医学の源流を尋ねて …… 2
「Japan-MARCの運用とその将来像」
説明及び公開実験に出席して …… 5
鍵とカード …… 6
附属図書館文化行事 …… 8
大型コレクションの共同利用の案内 …… 8
雑　報 …… 9
会　議 …… 10
出　張 …… 10
来館者 …… 11
人事往来 …… 11
後　記 …… 12

開館時間

授業期		休業期	
月～金	土	月～金	土
9時～20時	9時～16時30分	9時～17時	9時～12時30分

新聞で見る 徳島大学 昭和46年(1971)が完成しました。

昭和46年は附属図書館が新築なった年です。この年の１月から12月までの一年間を各新聞から「徳島大学」に関連する人，記事等を集めてスクラップ・ブックとして一冊に製本したもので，明るい話題，思い出の人，今はなき人，いやな事件など，この年の新聞をマイクロフィルムに撮影した後をスクラップとして作成したものです。

目次は日付順で，索引は氏名等の五十音順に編成したものが別冊としてついています。

ただ残念なことは徳島新聞が１～３月がセット版でないために朝刊，夕刊でダブった記事があることと，その他の新聞が３月までの新聞がなかったことです。（購読２部としたのが４月からのため)。今後も47年以降作成の予定です。

後　記

昭和56年当初，再々刊第３号の館報23号ができました。刊行頻度の関係で速報的なものは掲載できませんが，私達の図書館の歴史として愛読して下さい。編集子も次号からは新しくなる予定です。益々この館報が図書館を利用される皆様に身近なものとなるように努力してゆきたいと思いますので，積極的な御意見，エピソードなど図書館のためになり，利用者に有益な内容の御投稿をお待ちする次第です。

予定していた原稿が入手できないことになり，編集に手間どり発刊が遅れました御容赦下さい。

編集：発行　　徳島大学附属図書館
（〒 770）　徳島市南常三島町２丁目１番地　徳島（0886）23－2310　内線（338）